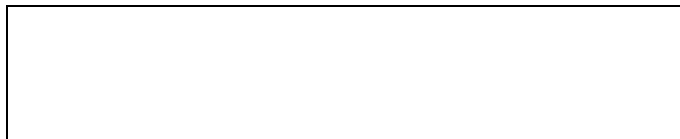
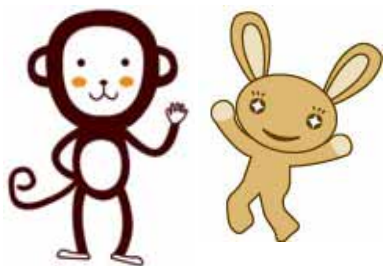


ビデオテキスト

『ビデオカメラを上手に使おう』



ビデオテキスト 『ビデオカメラを上手に使おう』

はじめに

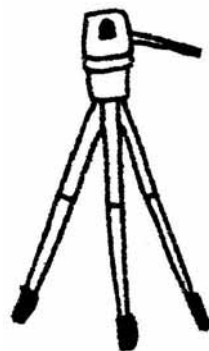
初めてカメラの操作(そうさ)をするときは、ドキドキしますね。「こわれないかな、うまくできるかな。」でも、そんなに難しいことはありません。このテキストを見て、上手なやり方をおぼえて、ぜひ挑戦してみましょう。

また、何回も経験のある人も、このテキストを見て、ちょっとしたコツを覚えるともっと上手にできるようになることでしょう。

1. カメラのあつかいかた

ふつうに撮影(さつえい)するだけなら、カメラがこわれることはありません。しかし、次のようなことには注意しましょう。

- ・ 落としたり、強いしん動を与えたりしない。
- ・ 太陽にレンズを向けない。
- ・ 湿気(しっけ)や高温、低温にさらさない。



コツ その1 撮影するときには

- ・ **三脚 (さんきゃく) を忘れずに**
手で持つとゆれてしまい、見づらい画面になる。
- ・ 手で持つときは、わきをしめて しっかり持とう。



2. 逆光について

光がどこからきているか、これも大切なことです。

光に向けて撮影すると、被写体(写っている人)が真っ黒に写ってしまいます。少し向きを変えれば、明るい画面になるでしょう。

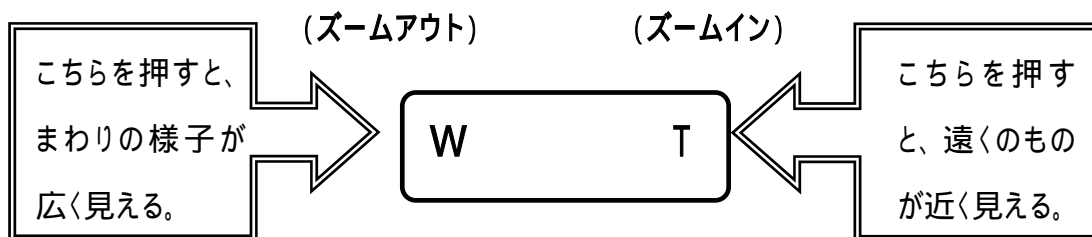


コツ その2

・明るい方に 背中を向けて 撮影(さつえい)しよう。

3. カメラワーク

カメラには、必ず図のようなボタンがついています。これで、画面の中の被写体の大きさが変わります。ファインダーをのぞきながら、押してみましょう。



コツ その3

・人差し指と 中指を 上手に使って
ズームイン・ズームアウト



左右にカメラを動かして、撮影(さつえい)することを **パン** と言います。

パンを使うと、まわりの様子がよくわかりますし、二人の人のやりとりを撮影するのも便利です。でも、あまり はやく動かしたり、左右に何度も動かしすぎたりすると、見づらい画面になってしまいます。パンの初めと終わりには、静止を入れることも必要です。

コツ その4

・パンのときはゆっくり動かそう。



4. ハンドサインの出し方

撮影(さつえい)するときに、関係のない声が入ったら困りますね。そこで、手で合図を出すのが一般的です。いろいろな合図を決めておきましょう。

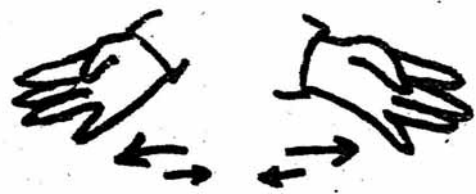
次のようなサインが よく使われます。

< 指を指す >



(キュー・スタート)

< 何度が 両手を 開く >



(もっとゆっくり)

< ぐるぐる回す >



(もっと はやく)

< 手のひらを上に

何度が上げる >



(もっと 大きく)

< 手のひらを下に

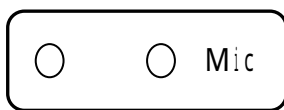
何度が下げる >



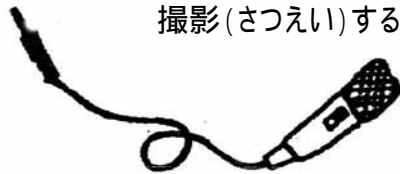
(もっと 小さく)

5. 音の とりかた

画面と音は、切っても切りはなせない 関係にあります。どんなに画面が 上手に撮影(さつえい)できても、出演者が何を言っているのか わからなくては、楽しさも半減(はんげん)してしまいます。スタジオで撮影する場合は、困らないでしょう。問題は、外で撮影する場合です。カメラを見て、関係ない人も集まってきて、さわぐかもできませんね。 そんなときは、マイクを接続して使いましょう。



左の図のように、マイクがさせるようになっていれば、OKです。もしなければ…… なるべく 静かなところで撮影(さつえい)するしかないですね。



コツ その5

・マイクを使って 聞きやすい音を。



おわりに

最初から、上手にできる人はいません。失敗をくり返して上手になっていくのです。まず、ビデオカメラをもって、どんどん撮影(さつえい)してみましょう。

見る人の気持ちになって、見やすい・聞きやすい画面を作りましょう。
そして、なによりも カメラに親しむこと。



